

感秋林 (原晚唐姚倫の作)

嘯月庵主人

赤根さず

東の方を

眺むれば

みどりの林も

もみじして

うつろふ秋の

いと深く

落つる木の葉れ

音しげく

梢にかゝる

鳥の巢も

さみしき影の

ものすこく

すみたる空に

飛ぶ雁の

羽さへ見へて

秋の夜の

月に驚く

鳥かや

嗟霜のあした

吹く風も

長閑けき春や

匂ふ日も

代りゆくなる

世のためし

榮枯の夢の

さてもあさよし

返歌

吹く風にちぎしく秋れもみじばは香ひ榮へし春は花かな

病褥中に諸學友の屢來訪せらるし厚情に感じて

鳴鶴

かねてより深き情は知れなから猶こそ見ゆれかゝる折には

又

同

幾千尋ろこひ知られぬ渡津海もまかしとぞ思ふ君の心に